

# 名古屋工業大学男女共同参画推進センター ニュースレター

Vol.7  
2016.12

## CONTENTS

### 1.TOPIC

愛知県豊田市のとよた男女共同参画センターとリケジョイベントを実施しました  
平成 28 年度「女性が拓く工学の未来賞」が決定しました  
女性技術者リーダー養成塾が終了しました

### 2.INTERVIEW

名古屋工業大学 監事 二村友佳子氏

### 3.COLUMN

ワーク・ライフ・アンバランス

## TOPIC 01 愛知県豊田市のとよた男女共同参画センターと リケジョイベントを実施しました

8月11日(木)に豊田市のとよた男女共同参画センター、本学女子学生団体「彩綾～SAYA～」と当センターの共催で「理工系の魅力発信デー with 彩綾」を開催し、小学生から大人まで496名の市民が参加しました。このイベントは、ものづくり企業が多く集積している豊田市で、将来、理工系を目指し、企業等で活躍する女性が増えていくように、主に女子中高生を対象に開催したものです。本学の学生による、学生生活や将来の夢についての発表をはじめ、ワールドカフェ形式で一人ひとりの将来を考える意見交換会、質問コーナーを設けての進学相談などを企画し、理工系大学進学の魅力のアピールしました。



また、小学生を対象に、科学を身近に感じてもらえるような“わくわく実験”(スライムづくり、酢と重曹の実験、スピーカー製作)も行いました。定員を上回る大盛況で、参加者からは、また企画してほしいという声が多く聞かれました。

## TOPIC 02 平成 28 年度「女性が拓く工学の未来賞」が決定しました

平成 28 年度「女性が拓く工学の未来賞」は、優秀賞に高井千加さん(先進セラミックス研究センター特任助教)、今野雅恵さん(オプトバイオテクノロジー研究センター研究員)の2名が選ばれ、10月26日に表彰式が行われました。

この賞は特別褒賞として平成 26 年度に創設されたもので、女性の社会的プレゼンス向上に貢献することが期待される若手女性研究者を表彰することにより、受賞者の研究意欲を向上させ、将来の工学研究を牽引する女性研究者の育成を趣旨としています。高井特任助教は、中空粒子の大きさや構造制御の研究を進める中で、スケルトン構造のユニークなナノ粒子を発見しました。さらに、この粒子の持つガス透過・滞留性をガスセンサー等に应用する研究をしています。子育てをしながら、自らの将来像を描きつつ、研究成果を精力的に論文発表して男女共同を維持する姿勢が評価されました。また、今野研究員は、光駆動の陽イオンポンプの発見および新規作成に成功しました。研究の中期的展望を持ち、個体への応用も見込む研究姿勢が評価されました。細胞膜の陽イオン透過機能の解析は今後の基礎研究、応用研究に強いインパクトを与えると期待されます。



今後は、本学の女子学生のロールモデルとして、将来研究者としての進路を考えるきっかけにもなると期待されます。



## TOPIC 03

### 女性技術者リーダー養成塾が終了しました

イーブルなごやと共催した「女性技術者リーダー養成塾」(第II期)は、10月25日に卒塾式を行いました。この養成塾は、女性技術者がリーダーとして必要なスキルを学び、それぞれのキャリアデザインを考える機会を提供することを目的とするもので、愛知県内の製造業17社から19名の女性技術者が、全8回の講座に参加しました。最終回は、名古屋工業大学が会場となり、塾生だけでなく、上席者も出席し、卒塾式が行われました。

前半は鶏飼学長の挨拶に続き、塾長の名古屋工業大学男女共同参画推進センター長 藤岡伸子教授から一人ひとりに修了証が授与され、これまで学んだことや今後職場でどのように活かしていくかを行動宣言として述べました。後半は「女性技術者への期待」をテーマに特別講演会が行われ、ブラザー工業株式会社代表取締役社長の小池利和氏、トヨタ自動車株式会社グローバルデザイン企画部主幹の山和紀久子氏が講演されました。最後の情報交換会では、塾生たちが互いに親睦を深めていました。



## INTERVIEW

### 名古屋工業大学 監事 二村友佳子氏

今回は、平成28年度に本学初の女性役員として監事に就任された二村友佳子氏にインタビューを行いました。その様子は、今号と次号のニュースレターでご紹介いたします。





女性活躍推進法が今年度、施行されました。社会では、女性の活躍が声高に叫ばれていますが、二村監事ご自身が女性の活躍について必要だと思われることは、どのようなことでしょうか。

まず、健康だと思います。つぎが、やり抜きたいという意欲。最後は、それに見合うための勉強でしょうか(笑)。若い頃は、ただ生きているだけで精一杯でした。勉強してついでに精一杯という所はありましたが、50歳代ぐらいになると、健康を害する人をたくさんみながら、ワーク・ライフ・バランスというか、自分のなかで「仕事をしているだけではダメだ」と思うようになりました。体力をつけ、健康に気をつけて、いかに自分自身をリフレッシュさせなければならないのかと。たとえば、旅行等をして職場から離れ、がんばろうという気持ちになるために、努力をしないとイケない。心身ともに健康であることが大事だなと思います。

**心身ともに健康であると、仕事に対する意欲や向上心が出てきて、また勉強を始めたりということになるのですね。**

そうだと思いますね。また頑張ろうと思いますし、何クソ!!じゃないですけど(笑)。

**今、お話しされたことは、職業を問わず、女性に共通した事柄ではないかと思うのですが。**

そうだと思います。どのような職についているのかではなく、女性が上位職につくには、どういう気持ちでいなければならないのか、すごく大事だなと思います。たとえば、子育て中も、娘に対して、「今の時代は女性も働く時代だから、何をやりたいのか何をやって生きていきたいのか、それを考えながら職業選択しないとダメだよ」と話してきました。

**ここからは、名工大の話になります。女性研究者、女子学生については、どうでしょうか。**

私が名工大の監事を引き受けさせていただいた経緯の一つに、前の監事である弁護士と会計士の先生がともに男性だったので、女性の活躍推進という点から、私に声がかかったということがありました。



監事になって、重要な会議にでると、女性が私以外1人もおらず、「まだ(女性が)1人もいないんだ」というのが正直な気持ちでした。女性登用、多様な人材の活躍というならば、こういう場にも女性がいてもいいのでは。工学部のなかにも、優秀な女性の先生は、おそらく、たくさんいると思います。そのなかから役員クラスになる女性の先生が出てくることを切に希望したいです。

**女子学生に対する印象はどうでしょうか。**

真面目だという印象です。男女問わず、真面目で、本当に研究熱心な学生さんが多いと思います。学生数全体で見ても、女子学生の数は、(学部生が)15%くらいと少ないですが、大学院の博士前期課程、さらに博士後期過程になると、女子学生がほとんどいなくなると聞きました。そのなかで、研究職で残ってもいいと思う女子学生がどうしても出ないのだろうか。博士後期課程に進学しても、研究職に必ずしも就けるわけではないですからね。

たとえば、博士前期課程の女子学生に、どうして博士後期課程に進まないのか、どういう条件が整ったら博士後期課程に進んでもいいと思うのか、また、博士後期課程に入学する女子学生をどのようにして引っ張り上げるか、何が(研究者を目指さない)ネックなのか、何が残ろうと思えないのかを調べていくと、何かわかるかもしれないですよ。

ありがとうございました。

(インタビューの続きは次号で掲載予定)





## 加藤 正史

1998年 名古屋工業大学卒  
2003年 同大学大学院修了 博士(工学)  
2003年 名古屋工業大学 助手  
2008年～現在 名古屋工業大学 准教授  
(その間リトアニア国ビロニユス大研究員、  
名古屋大学客員准教授 兼任)

## 第1回 タイトルの意図

## 連載を始めるにあたって

今回のニュースレターから、連載として紙面を汚す役目を仰せつかりました、電気・機械工学専攻の加藤正史と言います。よろしくお願ひします。前回のニュースレターには私のインタビュー記事を掲載いただいた流れで、この連載のお話をいただきました。当初は、私のような極端な境遇に置かれる人物(妻との死別により父子家庭)の文章が役に立つのか? 図らずも子供のプライバシーを侵害するのではないか?ということが気になりましたが、必要とされているならば私の考えを残そうと思い、この連載をお引き受けしました。

## タイトルの意図

タイトルの一部である「ワーク・ライフ・アンバランス」ですが、ワーク・ライフ・バランスという一般的な言葉をわざと崩してあります。その意図は、家族を持っている人は必ずどこかでアンバランスな状況に陥ること、そしてアンバランスを非とするのではなく、受け止めながら生きていく方が良いのではないか、という二点にあります。

私自身、バランスは全く取れておらず、妻の存命時ですら、子育てと仕事の間の葛藤を抱く日々でした。共働きである(もしくは単身で子育てをする)限り、子供の存在はどうしても時間的・空間的な拘束をもたらします。このことは研究者にとっては不可欠である、学会・会議参加の困難さを導きます。これらの完全な両立は不可能なため、必ずアンバランスは発生します(完璧なバランスが取れているよ!という方がもしいらっしゃったら、ぜひ取り方を教えてください)。今となっては確認する術はありませんが、おそらく妻も、彼女は研究者ではありませんでしたが、仕事と子育てとの間に葛藤を抱いていたのだらうと、彼女の在りし日の振る舞いを思い出して考えるのです。また、この葛藤は、子育てのみならず、おそらく介護においても発生するのだらうと思います(参考 [1] この本では、生涯最高とも言える研究成果を出した主人公が、介護によりその栄誉を受ける場に出られないことに関して、深く葛藤する場面が出てきます)。



## アンバランスを楽しもう

このように、家族のある限りアンバランスと葛藤は避けられないので、それに苦勞しつつも受け入れて、解決手段の模索を楽しむような社会になれば良いな、と私は思います。今後も連載の過程で、私のアンバランスな意見が出てくるかと思いますが、あまり真に受けず、楽しんでいただけましたら幸いです。

[1]『工学部ヒラノ教授の介護日誌』 今野 浩著、青土社(2016)

## INFORMATION

## 第3回 科学英語論文の書き方セミナー

日程 平成29年1月13日(金) 10:30~14:30(休憩含む)

場所 11号館 2階 1121 教室

講師 理化学研究所 客員主管研究員 小野義正氏

## 女子技術者懇談会 with 紗綾~SAYA~

日程 29年1月20日(金) 15:00~

場所 23号館 4階 2341 教室

講師 名工大女子学生団体紗綾~SAYA~と愛知県ものづくり企業の女性技術者との懇談会(日本女性技術者フォーラム共催)

発行 名古屋工業大学男女共同参画推進センター

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町 TEL | 052-735-5121

URL | <http://www.nitech.ac.jp/gender/> E-MAIL | [danjokyodo@adm.nitech.ac.jp](mailto:danjokyodo@adm.nitech.ac.jp)

デザイン 大久保侑哉 (藤岡研究室 M1)

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業(一般型)」